

JPTA NEWS

2021.10 vol.333

東京オリンピック スポーツ 理学療法の未来

パラリンピック



／ 会員限定！NEWS限定動画配信 ／

本号では、吉井智晴副会長より、「スポーツと理学療法のこれから」について会員の皆さまへのメッセージ動画を発信しています。QRコードからぜひご覧ください。



<https://youtu.be/zziFrEjeZs>



ISSN 0914-2517

特集

東京オリンピック・ パラリンピック

スポーツ 理学療法の 未来

1964年に開催された東京オリンピックから57年、東京2020大会が決定してから、スポーツを支援する専門職として、開催を心待ちにしていた方も多かったと思います。

しかし、COVID-19という未曾有の感染症拡大により、1年の大会延期を余儀なくされた2020年。その後も猛威は止まず、開催そのものの是非が問われる中での難しい開催となってしまいました。

前例にない緊張感がある状況の最中でも、大会の成功に向けて大会・組織・選手をサポートした理学療法士の活躍があります。

本大会をきっかけに、理学療法士は、スポーツにどのように関わっていくのか。東京オリンピック・パラリンピックでの理学療法士の活躍と共に本号でくわしく解説していきます。

東京オリンピック・
パラリンピック
理学療法士の活躍



選手村



ヘルスケアボランティア
(ドーピングコントロール)



各会場救護



日本選手団



中央競技団体



ハイパフォーマンス
サポートセンター



東京オリンピックにおける日本の理学療法士の活躍が、World Physiotherapy ホームページにて紹介されています。ぜひご覧ください。

URL
<https://world.physio/news/physiotherapists-play-key-role-tokyo-olympic-games>



スポーツと理学療法
について6Pから
解説しています。

→ = 日本代表選手強化
→ = 各国代表選手へのサービス提供



東京オリンピック・パラリンピック体験記



東京2020オリンピック大会
フェンシング競技会場にて（筆者：右から4番目）

オリンピック

フェンシング競技会場
理学療法サービススタッフ

北田 利弘 TOSHIHIRO KITADA

医療法人社団 健育会 竹川病院／（公社）東京都理学療法士協会 スポーツ局

「オリンピックは関わる者全てに夢と感動を与える！」…まさにそのとおりでした。フェンシング会場は、今まで私が経験した国際大会とは別世界で、会場は無観客を感じさせない熱気で満ち溢れていました。フェンシング会場18名の理学療法サービススタッフは、全員が東京都理学療法士協会のメンバーです。オリンピックのinjury time（試合中のケガ対応）では、さまざまなレンズを通して私達の姿が世界へ発信されます。その舞台上で毅然と急性期対応をするため、5年間に渡り救急救命士やアスレティックトレーナー、競技団体関係者や舞台振付師の方々から指導を受け、猛特訓を続けてきました。オリンピックという世界最大のビッグイベントでの活動経験を活かし、今後は活動を共にした士会の仲間達と、トップアスリート、子ども達などのスポーツや学校活動への支援を通して、東京都の皆さまの健康に貢献していきたいと思います。



日本選手団本部トレーナーブースにて

パラリンピック

日本選手団本部
メディカル班トレーナー

鳥居 昭久 AKIHISA TORII

東京保健医療専門職大学

私は、今回のパラリンピックにおいて、日本選手団本部メディカル班のトレーナーとして、選手村の日本選手宿泊棟にトレーナーブースを設け、日本選手に対する直接支援、各競技団体代表チームに帯同しているトレーナーの支援を行いました。今回、日本での開催ということで、選手村の外においても、多くの理学療法士が日本スポーツ振興センターの村外サポート拠点などを利用して選手たちを支援する体制が整備されました。これは日本選手団にとっても大変心強いものであり、大きな成果を出せた一因になったと思います。今回のパラリンピックを一つのきっかけとして、多くの理学療法士が障がい者スポーツに関心を持ち、日頃の診療活動における理学療法の長期目標に“スポーツ参加”を見据えたリハビリテーションの展開を実践していただきたいと思います。

オリンピック

選手村
ポリクリニック理学療法室

小林 美也子 MIYAKO KOBAYASHI

Motion Sports Medicine, New York

出産子育て中の米国で理学療法士として復帰するための動機が欲しくて、オリンピック・パラリンピックの活動支援に応募しました。英語診療の苦しさは身をもって知っていたので、海外経験者4名と共に活動に参加する理学療法士を対象としてZoom英語練習会を企画し、語学スキルを磨いていきました（計41回、延べ80名参加）。オリンピック期間中の理学療法室受付業務で驚いたことは、理学療法＝マッサージと考えて来る選手が多かったこと。評価次第でさまざまな理学療法が提案できることを説明しつつ、担当者に引き継ぐように心がけて活動しました。試合を控えた選手への対応はとても緊張しましたが、ペアになった理学療法士と知識や経験を補完し合いながら治療を組み立てるという貴重な体験ができました。日頃はスノーボード競技に関わっていますが、遠征時に選手の主訴により的確に応えられるよう、今後も徒手療法とテーピング技術を磨いていきたいと思います。



選手村ポリクリニック理学療法室（筆者：前列左から2番目）

オリンピック

一般ボランティア医療部門

私市 直人 NAOTO KISAICHI

医療法人社団 博聖会 広尾整形外科

私は学生時代にある理学療法士の先生にオリンピックの体験談を聞いて、鳥肌が立つような感動を覚え、その時から東京オリンピックに関わることを目標にしてきました。しかし理学療法士として関わるのが叶わず、一般ボランティアの医療部門で活動することとなりました。ボランティア活動の中で、私はドーピングコントロールのシャベロンを担当しました（対象者を探しドーピングコントロールの旨を通告、同意を得てコントロールステーションまで付き添う役割）。アスリートやボランティアとの出会いは今まで経験のない刺激的な日々でした。また今回の活動は理学療法士の活躍を側目にする悔しい経験でもありました。今回の経験をきっかけに、今後も日々の臨床に加えてスポーツ現場での活動も継続し、人々のスポーツ活動を支援できるよう精進していきたいと思います。また私がそうだったように、ひとりでも多くの理学療法士にオリンピックでの刺激的な経験を共有し、夢を与えられる存在になりたいです。



選手村にて

パラリンピック

ゴールボール男子日本代表チーム
ベンチトレーナー

藤堂 愛 AI TODO

公益財団法人 横浜市スポーツ協会 横浜市スポーツ医科学センター リハビリテーション科

当センターと日本ゴールボール協会は提携を結んでおり、私は2019年度からゴールボール日本代表チームにトレーナーとして携わっています。東京パラリンピックへは男子チームのベンチトレーナーとして参加しました。主な活動内容は、選手のコンディショニング、介助、ベンチスタッフとしてのコーチングです。コーチの役割も担うことにははじめは戸惑うこともありましたが、競技特性を深く理解することにつながり、リハビリテーションやコンディショニング指導に活かされています。予選リーグで選手が負傷した際、総合診療所の理学療法士の方とも連携、アドバイスをいただきながら対応し、当選手は決勝トーナメントに出場することができました。この経験から、競技特性を理解し、起こり得る傷害を想定することの大切さや理学療法士をはじめとした他職種と連携できる環境は必要不可欠であることを実感しました。



幕張メッセCホール（筆者：左から1番目）

パラリンピック

ハイパフォーマンス・
サポート事業

清水 怜有 REIA SHIMIZU

独立行政法人 日本スポーツ振興センター

今回、所属する独立行政法人日本スポーツ振興センターが、スポーツ庁から受託しているハイパフォーマンス・サポート事業の一環で、東京2020パラリンピック競技大会における選手村外サポート拠点の運営に携わり、リカバリーやコンディショニングができる場所をアスリートに提供しました。大会期間中、多くのパラアスリートに利用していただき、リカバリー方法に関する質問も受けました。その中で、それぞれの障害との関連を考慮したリカバリーやコンディショニングの知識の必要性を感じ、そのような点がパラアスリートに関わる理学療法士としての魅力の一つだとあらためて思いました。本大会をきっかけに、多くの理学療法士がパラスポーツに興味を持ち、スポーツ理学療法においてよりパラスポーツの分野を深めていければと思っています。

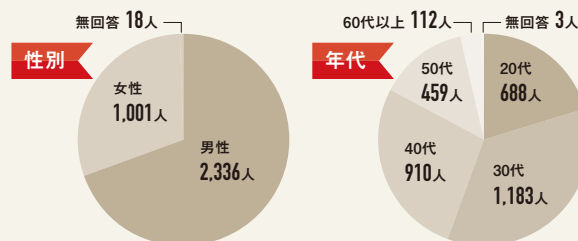


選手村外サポート拠点ケア受付前にて

スポーツと理学療法(士)に関するアンケート

スポーツ活動への関わりについて、
会員の皆さまを対象にアンケートを実施しました。

〔アンケート回答者基本情報〕

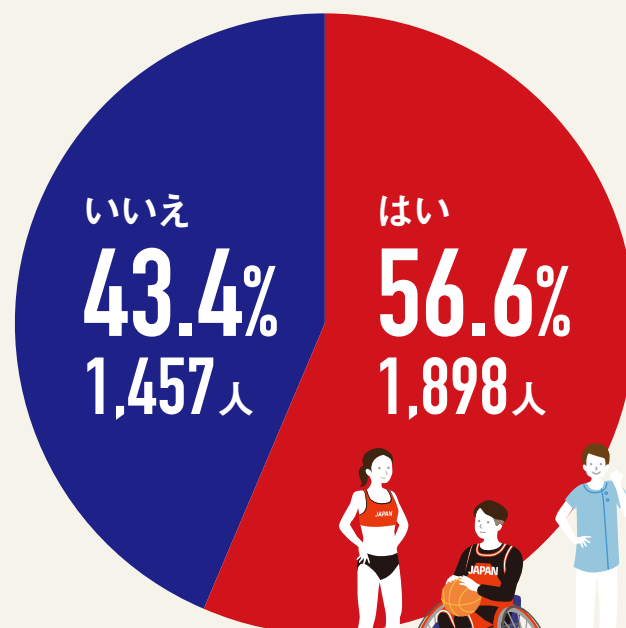


調査：JPTA NEWS 333(10月)号アンケート
実施期間：2021年8月30日～9月5日
回答者数：3,355人

※マイページに登録されている会員の皆さまのメールアドレス宛に回答のお願いを送信しています。メールが届いていない方は、マイページの登録内容をご確認ください。

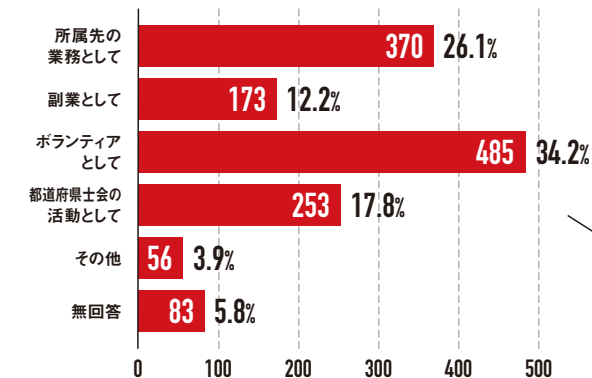
Q1. 理学療法士を目指したきっかけに、ご自身のスポーツ活動は関わっていますか？

アンケート回答者のうち、自分のスポーツ活動をきっかけの一つに理学療法士を志した方はおよそ6割にのぼりました。「スポーツ中にケガをして、理学療法を受けた」ことをきっかけに、理学療法士に憧れを持つようになったという方も多いかもしれません。



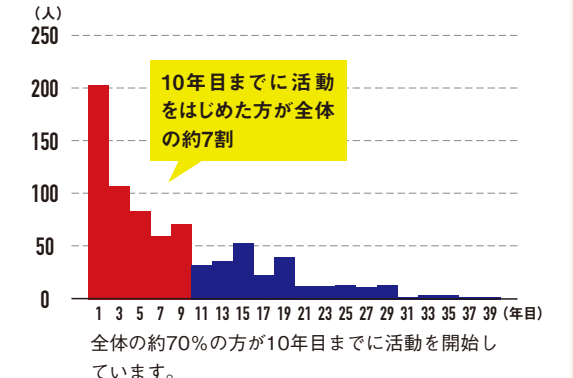
「はい」と回答した方に伺います。

Q. 現在の関わり方について
当てはまるものを選択してください。



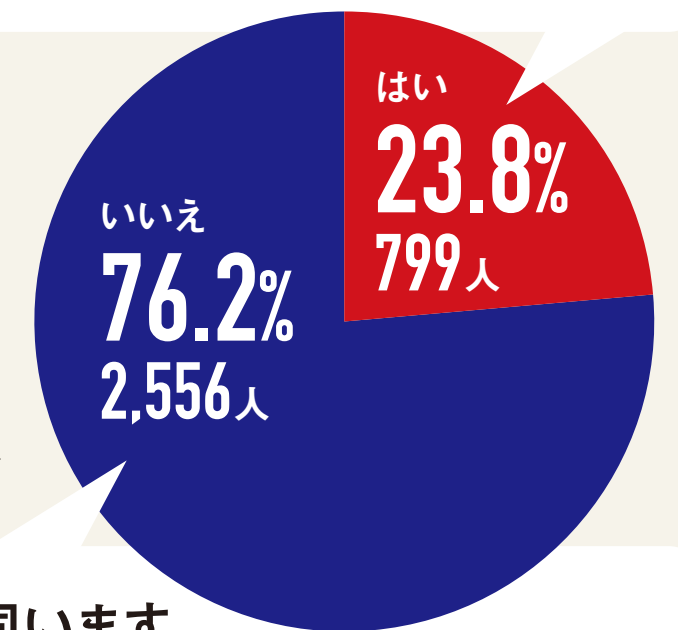
スポーツへの関わり方として最も多かったのがボランティア (34.2%)、次いで所属先の業務 (26.1%)、都道府県士会活動 (17.8%) と続いています。

Q. いつ頃から活動をはじめましたか？



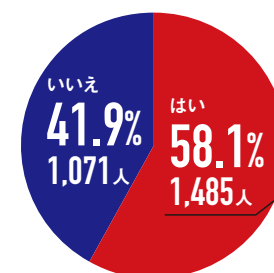
Q2. 現在、理学療法士として「スポーツ・障がい者スポーツ」に関わっていますか。

一方、現在理学療法士として「スポーツ・障がい者スポーツ」に関わっている方は、全体の約1/4にとどまりました。



「いいえ」と回答した方に伺います。

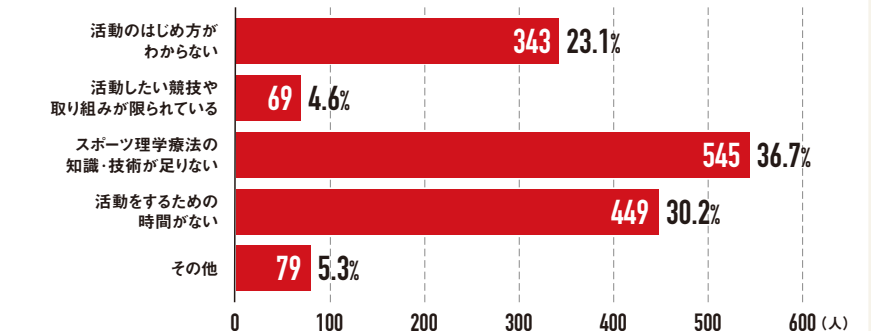
Q. 今後、理学療法士としてスポーツに関わりたいと思いますか？



現在は関わる機会がない方でも、今後理学療法士としてスポーツに関わっていきたいと考えている方は約60%にのぼりました。

はいと答えた方に伺います。

Q. 現在、スポーツへ関わるできない1番の理由を以下から選択してください。



活動をはじめることが難しい1番の理由、最も多かったのは「スポーツ理学療法の知識・技術が足りない」(37%) ことでした。また、「活動をするための時間がない」と30%の方が回答しており、仕事と生活の中で活動する時間を捻出できないという方も多いかもしれません。

では、現在活動している方々は、どのように取り組みを行っているのでしょうか？ どうやって実際の活動につながっていったの？ 経験を通してどんなことを得たの？ さまざまな疑問が浮かんできます。

次のページでは、会員の方のスポーツ活動との関わりを紹介していきます。



江浜 崇
リハビリネクス株式会社

愛知県

- A1** 障がい者バドミントンの活動をしています。車椅子に乗られている方などを対象にチーム練習をされる日程が決まり次第、ボランティアで参加します。
- A2** 名古屋市で障がい者バドミントンの全国大会がありボランティアで参加したのがきっかけです。
- A3** パラリンピックのアスリートの方もいますが、多くの方は仕事をしながらなど余暇活動で行っています。お互いに競うことよりも楽しみながらともに生きていくという面で前向きになれるきっかけがスポーツ活動であることを学びました。その中で理学療法士としてではなく、ひとりの個人として一緒に活動することがまずは重要な要素であると思いました。
- A4** 障がい者のスポーツもいろいろな種類がありますが、参加される方の体調の変化などで参加人数が減少しがちで、活動できない場合もあります。なんとか参加できる工夫をする必要を感じています。

スポーツと理学療法(士)の取り組み

活動紹介

本号のアンケートでは、現在、理学療法士としてスポーツ活動に関わっている会員の方に応じた質問にもご回答いただきました。本ページでは活動の様子を一部ご紹介していきます。

- Q1** 実際に理学療法士としてどのような活動をしているの？
- Q2** 活動をはじめたきっかけは？
- Q3** 活動するとどんな経験が得られるの？
- Q4** 今後の展望や目標は？



佐藤 志保
竹田総合病院リハビリテーション部

福島県

- A1** 地域での障がい者スポーツ教室（フライングディスク ボッチャ等。対象は子どもから高齢の知的および身体障がい者）福島パラ陸上競技協会にて車椅子レーサー担当
- A2** スキー場でチェアスキーヤーに逢い、障がいのある友人と共にチェアスキーに関わったのがはじめです。スキーは自分のケガや出産で活動はできなくなっていました。友人から障がい者スポーツ指導員をすすめられ資格を取得。地域での障がい者スポーツ教室やパラ陸上、フライングディスク等で指導員として活動を行っています。
- A3** 障がいによる（障がいのある方による）関わり方の違いを学び、スポーツを通して障がいをもつ子どもの成長や変化を感じることができました。
- A4** 地域での障がい者スポーツの普及、福島パラ陸上競技協会からパラリンピックへつながる選手の育成を目指していきます。



工藤 和善
市立函館病院リハビリ技術科／弘前大学大学院保健学研究科

北海道

- A1** 創傷に対してMES（微弱電流刺激療法）を使用し早期の治癒を目指す再生医療の研究に携わっています。また、日本褥瘡学会車いすアスリート支援委員会北海道地区委員として、シーティングや創傷のケアについてアドバイスさせていただいています。
- A2** 学生時代に、北海道内の養成校、地域の高校や大学、さらに障がい者アスリートとの交流を目的にバスケットボールの大会を仲間と立ち上げました。北海道内の車いすバスケットボールチームを招待して試合をしていただいたり、ウィルチェアラグビーのチームにデモンストレーションをお願いし、実際に体験させていただく機会を設けました。その時の競技レベルの高さや、選手の皆さんとサポーターの方々から競技を楽しんでいる姿に圧倒されました。一方で、どんなに競技レベルが高くても、褥瘡ができてしまうと競技からの離脱を余儀なくされるということも知りました。学生時代に仲間と体験したこれらの交流が一つのきっかけとなっています。
- A3** 障がい者スポーツとの関わりは、人との関わりそのものだ学びました。“理学療法士として自分に何ができるか”は必要ありません。彼らは障がいの程度によってサポートが必要ですが、それは身体上の問題であって精神的にタフで自立しています。
- A4** 現在の研究活動を通じ、障がい者スポーツ分野でも創傷治癒を早めるため物理療法を応用し、早期の競技復帰を支援できる体制づくりと、そもそも褥瘡を発生させないという予防的な活動も支援していきたいと考えています。



古西 幸夫
総合リハビリテーションセンター・みどり病院／新潟医療福祉大学大学院保健学専攻 理学療法分野

新潟県

- A1** 義足を使って生活している方などを対象にしている「NUHW ParaTFC 障がい者陸上教室」という活動に参加しています。主催は新潟医療福祉大学の義肢装具学科の教員や学生の皆さんです。参加者には若い方も多く、板バネと呼ばれるスポーツ用の義足をお貸しして、ランニングの練習を行っています。
- A2** 職場でお世話になっている義肢装具士の方から当活動に誘っていただきました。当時は義肢装具学科の教員、学生、義足ユーザーの方が参加しており、運動のお手伝いをできるスタッフが不足していました。私も経験が足りておらず試行錯誤しながらでしたが、専門性を発揮して活動のお手伝いができることにやりがいを感じています。
- A3** 病院で働いていると、具体的な「生きがい」について目を向けて関わるができる機会は少ないかもしれません。義足の陸上教室では、さまざまな垣根を越えて試行錯誤し合い、目標に向かう楽しさを得ています。
- A4** パラリンピックが日本で開催されましたが、障がい者がスポーツをする場所や機会はまだ限られています。地域の中から、参加者やサポーターが増え、活動の輪が広がっていくとうれしいです。



渡部 健太郎
とちぎメディカルセンターしもつが

栃木県

- A1** 栃木県AT連絡協議会からの派遣としてウエイトリフティング競技の栃木県代表チームへ帯同して国体サポート（ウォーミングアップ指導、トレーニング指導、ケア）を行っています。社会人硬式野球チームのトレーナーとして年間を通してチームサポート（練習プログラム立案、応急対応、ケア、アスレティックリハビリテーション）を行っています。冬のオフシーズンには県内の野球選手（小・中・高校生）を対象とした広域野球肘検診事業に関わっています。また、年間を通して栃木県理学療法士会メディカルサポート部部長として高校野球サポート、ワークショップ開催の運営などを行っています。
- A2** もともとスポーツ活動には興味がありましたが、県士会のメディカルサポート部で高校野球サポートに関わったのが最初でした。周りのスタッフにも恵まれ、参加していくうちにより選手の近くで活動したいという思いが強くなりいろいろな競技に関わるようになりました。
- A3** スポーツ選手にリハビリテーションに関わる際、置かれている環境（チーム内でのポジション、役割、練習に対する姿勢、モチベーションなど）についてよく考えて接したうえでプログラムを立案するようになりました。
- A4** 急性期からスポーツ復帰をイメージして選手に寄り添ったリハビリテーションを提供できるよう、より多くの臨床経験・現場経験を積んでいきたいです。



小山 航紀
みやもと整形外科

岡山県

- A1** ①中学校部活動指導員（バスケットボールに関して指導・コーチング、障害予防、救護等週末を中心に活動）②国体少年バスケットボールチームへのトレーナー帯同（U-16世代、活動期間はセレクション～本大会まで、救護・コンディショニング・リコンディショニング・試合や練習前のウォーミングアップ、クールダウン、試合や合宿中の水分補給管理等）③県バスケットボール医事科学委員からの依頼による大会中の救護活動（月1、2回、ミニ～シニアまで、大会から委員会への依頼により出勤、コートサイドで救護活動）④岡山マラソンでの救護活動（年1回、救護ブースでストレッチやテーピング）⑤オリンピック選手村ポリクリニックでの理学療法（1週間）
- A2** 岡山マラソンの救護スタッフとして参加し、そこで出会った理学療法士にバスケットボールの医事科学委員の方を紹介してもらい、以降救護活動への参加を通じて、さまざまなつながりから今に至ります。
- A3** はじめは救護として関わってきたものが、チームに帯同することになり、障害予防やコンディショニング・リコンディショニング等のさまざまな視点で選手、患者さまを見ることができるようになりました。
- A4** 理学療法士として働きながらも、CSCSやJSPO-ATなどの資格取得を目指し、いまよりもさらに多角的な視点から選手、患者さまを見ることができるようになっていきたいです。また、ポリクリニックで得た最高の経験とモチベーションを活かし、自分の得意なバスケットボール選手以外のスポーツにも関わられるようにしたいと思います。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

担当
理事に
聞く

スポーツと 理学療法士のこれから

すべてのひとの健康と幸福を実現するために、「スポーツ」を競技スポーツより広い意味でとらえた時、理学療法士はどのように活動していくことができるのでしょうか。本会において「スポーツ理学療法」「障がい者スポーツ」を担当されている2名の理事にスポーツと理学療法の今後の展開について思いを伺いました。

また、昨年スポーツ庁が行った調査研究の結果を踏まえ、政府も期待する私たち理学療法士の果たしていく役割について、職能推進課担当理事に「健康増進」という広い視点から、本会としての今後の取り組みについて伺いました。

東京オリ・パラ大会から理学療法士の未来に向けて！

スポーツ理学療法の全国展開・推進事業、オリパラ記録集の作成事業担当 吉井 智晴

東京2020オリンピック・パラリンピックでは、選手村のポリクリニック（診療所）や各競技団体への支援など、本会会員の活躍の場は多岐にわたりました。現場経験のある会員の皆さまでしたが、さらに2018年から大会前まで実施したスポーツ理学療法研修会で知識技術をブラッシュアップして臨んだ成果は、各国の選手からの賞賛、コンディションの維持・改善につながりました。それらを「オリ・パラレガシー編集作業部会」では、募集から成立までの流れ、実際の活動、将来に向けての提言など、単なる記録集ではなく、「ヒト」と「仕組み」をレガシーとしてまとめます。これまで『スポーツ理学療法に興味はあるけど、ちょっとハードルが高いなあ〜』と思っていた方にも手に取っていただけるような記録集を目指します。



障がい者スポーツを支援する理学療法士

障がい者スポーツ普及促進事業 清宮 清美

障がいの有無に関係なく、私達は健康で社会文化的な生活を営む権利を有しています。理学療法士は人々の医療・保健・福祉の増進を支援する職業です。この度の東京オリンピック・パラリンピックの感動をきっかけに、障がい者スポーツにも興味を持たれた方が多いのではないかと推察します。理学療法士は、競技に関してだけではなく、障がい者ご本人に対してスポーツを通して生きていく糧を得られるよう支援することができます。「障がい者スポーツ普及促進運営部会」では、養成校や都道府県士会の皆さまにご協力を仰ぎ、理学療法士が障がい者スポーツにどのように関わっていくことができるのか理解を深めていただき、それを普及していく方法を検討しています。



政府も
注目

理学療法士の「おすすめ」が 障がい者スポーツのきっかけに関与



職能推進課担当業務執行理事
佐々木 嘉光

スポーツの振興とスポーツ関連施策の推進を担うスポーツ庁は、第2期スポーツ計画において「障害者の週1回以上のスポーツ実施率」を成人で40%、若年層で50%以上との数値目標を掲げています。令和2年度の「障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究」では、障害者（成人）の週1日以上のスポーツ実施率（散歩や階段昇降を含む）は24.9%と目標値に到達していないことが明らかになりました。

同研究では、障害発生後にスポーツを始めたきっかけとして、一定の割合で「医療関係者の奨め」が関与していると報告されています。特に肢体不自由（車椅子必要）の対象者では、「理学療法士（PT）・作業療法士（OT）・看護師等の医療従事者に奨められた」ことをスポーツのきっかけにしている割合が21.8%を占めていました。

日頃の臨床場面で、障がい者スポーツについて患者さん・利用者さんとお話をされている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。理学療法士の情報提供一つをとっても、スポーツ活動を通した社会参加につながる可能性を秘めていることを、本調査は示しています。

ぜひ、障がい者スポーツに興味を持っていただき、スポーツ活動を通した社会参加の橋渡しに貢献していただければと思います。

本調査の結果を踏まえ、今後本会としても障害のあり・なしによらず、国民の方が一生涯スポーツ活動に取り組み、健康増進に寄与できるよう取り組みを進めていきます。

参考
スポーツ庁障害児・者のスポーツライフに関する調査
「障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究」（令和2年12月調査）

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/chousa04/sports/1402342_00002.htm
(2021年9月7日閲覧)



東京2020オリンピック・パラリンピック（以下、オリパラ）は、COVID-19感染拡大の渦中で開催されました。したがって、医療現場で感染症患者の対応に日々尽力されていた会員の皆さまにとっては素直に応援できない状態だったと拝察します。しかし、良し悪しは別にして、オリパラの会場で、感染対策に細心の注意を払い、参加国全ての選手のために本会会員が活躍されました。主役は選手ですから、サポートチームのことはニュースにはなりませんが、日本の理学療法士のサポートレベルは大変高い、と賞賛を受けました。その対応があまりにも素晴らしく、ある国から講演招聘を受けた会員もあり、大変うれしいことです。

今回のオリパラで、特筆すべきことがもう一つ。障がい者スポーツへの理解が一歩進んだことです。障がい者スポーツの歴史は長いですが、どうしても「生活支援の一部」という位置付

けでした。それが、このオリパラの準備から本番を通して大きく変わろうとしています。本会内にも「スポーツ理学療法の全国展開・推進運営部会」と共に「障がい者スポーツ普及促進運営部会」が立ち上がりました。オリパラ閉会后、特に障がい者スポーツに関心を持ち続けてもらえるか否かが課題です。そこに、理学療法士の関わりは重要になってきます。

理学療法士とスポーツの関わりは、次のステージに向かいはじめました。トップレベルのアスリート支援だけでなく、子どもたちや愛好者のスポーツ障害の予防、障がい者がスポーツを安全に気軽に行えるようにすること、生涯スポーツへの取り組みと継続等、さまざまな年代、場面でスポーツに関わる方々を支援できる理学療法士が増えてほしいと思います。

(吉井智晴)

Top Message

会長 齊藤 秀之



理学療法と リハビリテーションを峻別しよう！

東京オリンピック・パラリンピックが閉会した。日本を舞台に世界中のオリンピックとパラリンピアンが人類の限界に挑む姿は格別である。そして、その姿をサポートする一員として、多くの理学療法士が様々な立ち位置で参画されたことに敬意を表したい。

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会への協力

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会大会運営局医療サービス部課長として本会会員である片寄正樹氏が就任し、本会と密な協力関係を築けたことは周知されるべきことである。片寄正樹氏と共に組織委員会の一員として休みもなくこの国家プロジェクトに寄与した会員諸氏には労いと最大の感謝を伝えたい。

質の高い研修が構築でき、未来の仕組みづくりと運動

本会の2020年東京大会推進委員会は、組織委員会と協議しながら、実践で活躍できる理学療法士を登録するための研修を実施した。この研修内容はWPT（World Physiotherapy;世界理学療法士連盟）のサブグループであるIFSPT（The International Federation of Sports Physical Therapy）で高く評価されている。この評価は、世界標準の認証制度を構築していく機会と捉えたい。

ポリクリニック運営体制はオリジナル、その実績は世界が評価

医師、理学療法士が中心となり、アスレティックトレーナー部門が併設された選手村のポリクリニック体制はオリジナルであり、現下の理学療法部門のストラクチャーとしても残していくべきである。そして、その利用実績も日に日に増え、IOCや外国選手団から過去にはないほど評価を受けた。スカウトされた理学療法士もいた。世界がわが国の理学療法士による理学療法を世界標準、それ以上として認識したと言っても過言でない。

COVID-19まん延に安心・安全に対応

新型コロナウイルス感染症のまん延下での活動は尋常ではなかったはずである。にもかかわらず、理学療法士からの感染者は0（ゼロ）と報告を受けた。わが国の理学療法士が過酷な環境の中でも、アスリートファーストを安心・安全に成し遂げた活動を誇りにしたい。

リハビリテーションと理学療法を厳格に区別する時

今日、リハビリテーション＝理学療法という認識になっていないだろうか。今回、ポリクリニックは、リハビリテーション室ではなく、理学療法室で統一した。私は今こそ国民の健康を高め、国の社会保障費の削減に寄与するために、レガシーとしてリハビリテーションと理学療法の峻別を会員に強く求めたい。

理学療法士をとりまく



Vol. 10

グローバル化に向けた国際事業展開

少子高齢化が急速に進む日本は、「課題先進国」として国際的な注目を集めています。これは、理学療法分野においても同じことがいえます。本会でも国際展開や国際協力を通じて、他国・地域の理学療法士協会などとの関係醸成を推進しています。

今年度は、内閣官房健康医療戦略室などと共催で、5月22日に「第3回アジア理学療法フォーラム」をオンラインで開催しました。WHOのユニバーサルヘルスカバレッジ親善大使の武見敬三参議院議員、アジア18の国と地域の理学療法士協会代表者らと、テクノロジーを活用した理学療法、障害や高齢者などを支援できる仕組みに向けた取り組みなどについて、幅広く意見交換を行いました。

8月1日には日韓合同理事会議をオンライン開催し、ニューノーマルな時代における理学療法についても意見交換を行うと共に、将来の協力に向けてMoU（覚書）の刷新についても協議がなされました。今後、国内外で進展するグローバル化に対しても、2023年に日本で開催される世界理学療法連盟学会に向けても、国際的に活躍できる人材の育成が求められています。

そこで本会では、国内外で活躍できる理学療法士の育成を支援するため、オンライン言語交換事業「JOPTEP（JPTA Online Physical Therapist Exchange Program）」を10月にスタートしました。本事業は、一般的な「オンライン英会話」を参考に、協力関係にある国・地域の理学療法士協会の協力の下、本会会員と他国・地域の理学療法士をマッチング、ウェブ会議システムを用いて、オンライントークをするというものです。

世界の理学療法士の仲間とつながり、言語能力を磨きながら、各国の理学療法について情報交換をする機会を提供します。

理学療法士のための、豊かな国際感覚を養える言語交換サービスです。ぜひご活用ください！

国際事業情報随時更新中！

JOPTEP
紹介ページはこちら

<https://www.japanpt.or.jp/pt/international/globalization/>



理学療法士議員 小川かつみ 国会を走る！

本コーナーでは参議院議員として活躍する理学療法士 小川かつみ氏が、政治の世界で進められている社会保障施策への取り組みについて説明します。

本コラム、閉会中の厚生労働委員会開催について書いてきたところに、菅総理の総裁選不出馬の報がいきなり飛び込んできました。

菅総理…、その心の奥底を知る由もありませんが、安倍前総理のコロナ対応半ばでの突然の辞任で、結果的に一番大変な時の日本を背負うことになった菅義偉氏。私は昨年、彼に総裁選への立候補を要請したひとりでもあります。発信下手

菅義偉氏、リーダーとして…

の寡黙だけれど実行力の総理であつたと思っています。彼の成したことを思いつぐまに挙げれば、官房長官時代のふるさと納税制度創設に加え、総理としてわずか1年の間に携帯電話料金の値下げや不妊治療の保険適用、カーボンニュートラル、ALPS処理水問題、そしてDX（デジタルトランスフォーメーション）の司令塔であるデジタル庁の設置等々、誰もが知りつつも手をつけなかった多くの課題と向き合い、庶民目線で着実に課題を解決し、着手してられました。

コロナ対応でも、ワクチン接種率の高さ、感染者や重症者の少なさなど、国民の

多くの命を救ったと、海外からは高い評価を受けている得難いリーダーです。ワクチンの入手に際しても、自らが交渉に当たって十分な量のワクチン提供を取り付けました。いずれにせよ、無派閥、叩き上げの実直な総理・総裁として大変な重荷を背負い、折れそうな心を立て直しながらの日々であつたことと拝察します。

さて、私たちは次のリーダーを選ばなければなりません。誰がいまの日本の舵取りをするのに適任なのか、理学療法士の思いを共有していただけるのか、皆さんと共に熟考します。

1951年、福岡県北九州市生まれ。1973年、九州リハビリテーション大学卒業。熊本県理学療法士会会長、日本理学療法士協会副会長などを歴任。2016年、参議院議員通常選挙にて初当選。現在、参議院厚生労働委員会委員長、日本理学療法士協会理事などを務める。小川かつみ公式サイト(<https://ogawa-katsumi.com/>)にて活動報告等。





松野 俊次(まつの としつぐ)

特定非営利活動法人
発達を支援する会じゅんぐるじむ 理事長
こども発達サポートセンター
「じゅんぽっぷ」相談支援専門員

Toshitsugu Matsuno
1954年愛知県生まれ。早稲田大学入学と同時に東京YMCAのボランティア活動を開始。そこでの障がい児との出会いから大学卒業後に理学療法士の道に。子ども達への支援を生涯の仕事と決め、愛知県立第二青い鳥学園・豊田市こども発達センター・岡崎市こども発達センターで39年間勤務した後、現職。障がいのある子どもとそのご家族への支援に貢献すべく、セカンドキャリアに進出。

生涯現役

障がいのある子どもと ご家族の支援を一生の仕事に

生涯現役第15回は、ボランティア活動で障がい児と出会ったことから理学療法士を志し、現在も子どもとご家族の地域での暮らしを支え続ける愛知県理学療法士協会所属の松野俊次先生のメッセージをお届けします。

もともと子どもが好きだったこともあり、大学入学と同時にYMCAの学生ボランティアをはじめた。子ども達と一緒に公園に行ったり、夏にはキャンプ、冬にはスキーキャンプにも行った。手足の不自由な子どものキャンプに参加し、初めて車椅子に乗った脳性まひの子ども達に出会った。東京教育大桐が丘養護学校(当時)の高等部2年生だったM君との出会いは特に衝撃的で、私の人生を変えた。キャンプスタッフとして参加していた医者の中から理学療法士という職業を知り、大学卒業後に養成校に入学、理学療法士となった。

障がいのある子どもへの支援をしたいという思いから理学療法士になったので、最初から子どもの分野に行こうと決めていた。実家の近くに肢体不自由児施設である「愛知県立第二青い鳥学園」があり、就職。当時は脳性まひ等中枢神経疾患に対する治療法として、神経生理学的アプローチが盛んに行われていた頃で、私もそれを学び臨床に取り入れていた。また、在宅で青い鳥学園に通う通園部の担当、愛知県が実施していた地域の通園施設等への巡回療育にも参加し、家庭で家族と共に、地域で暮らす障がい児への支援の大切さを学ばせてもらった。

38歳の頃に、青い鳥学園の園域であった豊田市で総合通園センターを作る構想が持ち上がった。理念は、園域に住む全ての障がいのある子ども達の在宅での生活を保健・医療・福祉・教育が連携して支援すること。幸運にもその企画から関わらせてもらうこととなり、建物の設計、建設、組織作り、人集め、具体的な運営、全てのことに携わった。建物をつくり、備品を入れ、子どもとご家族への支援をさせていただいた豊田市こども発達センターで得難い経験を沢山させていただき、それらの経験から、理学療法士としての視点だけで障がい児をとらえるのではなく、より広い視点から地域で暮らす障がい児とそのご家族のことがよく理解できるようになったと思っている。

今の所属であるこども発達サポートセンターじゃんぽっぷでは、相談支援専門員として相談事業を主に担当している。理学療法士としての専門性と今までの経験を活かし、生活をマネジメントする観点から、地域で暮らす障がいのある子どもとご家族への支援を行っている。これからも子どもとご家族に寄り添いながら、地域での暮らしを支援できたらと思っている。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージを募集しております。
お問合せ先：JPTA NEWS担当 news@japanpt.or.jp

INFORMATION

異動・休会・復会・退会等の手続きについて

ご登録内容に変更が生じた場合は、日本理学療法士協会（以下、本会）ホームページ内の【マイページ】へログインし、Web 申請にて各種手続きをお願いいたします。
トラブル防止のため、電話・メール・FAX による各種申請は受け付けておりません。

〈参考 URL〉<https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/member/>
＊ Web 環境がない場合は、本会事務局（TEL：03-6804-1421）へお問い合わせください。



異 動

勤務先異動・改姓・自宅住所変更等によりご登録内容に変更が生じた場合は、マイページの【会員管理】➡【異動申請】よりお手続きください。

(注) ・非常勤勤務の方も勤務先会員をご選択ください。
・海外会員に登録される場合は、会費の支払い方法について確認させていただきますので事前に本会事務局へご連絡ください。なお、帰国後は必ず都道府県理学療法士会に所属しなければなりません。
・施設移転等による施設情報の変更は、施設代表者様のみ変更が可能です（異動申請は不要です）。
代表者様は【マイページ】へログインしていただき、【会員管理】➡【マスタ管理】➡【施設情報メンテ】よりお手続きください。

休 会 ・ 退 会

マイページの【会員管理】➡【休会申請】または【退会申請】よりお手続きください。
申請受理後、下記の権利が停止となります。

- 各種研修会・学会等への会員価格での参加（非会員価格での参加となり、会員対象の研修会への参加はできません）
- 各種学会への無料での演題登録
- 理学療法士賠償責任保険への加入（全員加入・任意加入）
- 学術論文誌「理学療法学」ならびに会報誌「JPTA NEWS」の無料発送
- 選挙権、被選挙権
- 福利厚生サービス「クラブオフ」の利用 など

〈休会される場合〉
・休会期間は4月1日から翌年 3月31日までです。年度途中の休会も満了日は3月31日となります。ただし、1月1日～3月31日の間に申請が行われた場合は、翌年3月31日を休会満了日とします。
・休会期間満了時までに必ず復会/休会継続/退会いずれかの手続きをお願いします。休会継続をご希望の場合は、休会継続申請受付期間（1月1日～3月31日まで）にご申請ください。
・休会期間満了時までに手続きがない場合は、規定により退会となりますのでご注意ください。退会後に再度ご入会される場合は、新人教育プログラムは再履修となります。
・休会中に改姓や連絡先の自宅住所が変更になった場合は、マイページの【会員管理】➡【異動申請】よりお手続きください。
・年度途中の申請の場合、納入済の当年度年会費はご返金いたしかねます。

〈退会される場合〉
・退会日は退会申請を行った日となります。退会後に再度ご入会される場合は新人教育プログラムは再履修となります。
・納入済の当年度年会費はご返金いたしかねます。
・会員証は、必ず破棄をお願いします。

復 会

休会中の会員が復会を希望する場合は、マイページの【会員管理】➡【復会申請】よりお手続きください。
(注) 当年度会費(1月1日～3月31日の間は次年度会費)納入後の承認となります。

【マイページ】のログインID・PWの再発行について

マイページへログインできない場合は、マイページログイン画面下の「ログインできない方はこちら」より、ID・PWの再発行の申請をお願いします。
〈参考 URL〉<https://www.japanpt.or.jp/inquiry/faq/mypage/system20002.html>
(注) お電話による ID・PW のご照会 は 行っておりません。



年会費割引制度について

本会では、下記の年会費の割引制度をご用意しています。
対象の方はぜひご活用ください。

シニア割引

育児休業割引

海外会員割引

※前年度2月20日までにご申請いただいたものについて、翌年度の年会費に適用いたします。(育児休業割引は休業期間中の申請が必要)

割引制度の詳細は、本会 HP にてご確認ください。
〈参考 URL〉

<https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/member/06/>
(JPTA 会費担当：billing-chg@japanpt.or.jp)



クラブオフについて

本会では、福利厚生サービスとして、
会員優待料金でさまざまなサービスが利用可能な
「日本理学療法士協会 クラブオフ」をご用意しています。

＼はじめよう！／
クラブオフアプリ

- お気に入りクーポンリストが作れる！
- 現在地からクーポン検索！
- 会員さま限定のお得情報が届く！

詳しくは
クラブオフ
サイトへ



◎その他のサービスの詳細は Web で検索！

理学療法士協会 クラブオフ 検索



HOT TOPICS

豪華賞品が当たるチャンス！ クラブオフ・プレゼントキャンペーン

日本理学療法士協会
クラブオフでは、会員限
定のプレゼントキャン
ペーンが開催されていま
す。応募期間は12月25日
(土)まで、応募者全員へ
クラブオフクーポンのプ
レゼントもありますの
で、お見逃しなく！

[https://www.
club-off.com/
japanpt/](https://www.club-off.com/japanpt/)



※応募にはログインIDとパスワードが必要
です。(ログインできない方は下記をご覧
ください)

[https://www.japanpt.or.
jp/inquiry/faq/members/
members90001.html](https://www.japanpt.or.jp/inquiry/faq/members/members90001.html)



期限迫る！e-ラーニングの 申込みはお早めに！

2021年度のe-ラーニング申込期限は、11月
30日(火)です。

新人教育プログラムはe-ラーニングのみでも
修了することが可能です。また、生涯学習ポイン
トが取得できるコンテンツも多数ご用意してい
ます！視聴にも期限がございますので、まだ申
込みをされていない方は、余裕をもってお手続
ください。

※視聴期限：12月31日(金)まで

[https://www.japanpt.or.jp/pt/
seminar/browse/02/](https://www.japanpt.or.jp/pt/seminar/browse/02/)



新たな働き場所での 働き方セミナー動画公開

公的保険外で活躍する理学療法士の働き方セミナー動画を本
会HP(会員専用コンテンツ内)に公開しました。今回は、健康
経営、一般企業等の分野で活躍する
理学療法士の取り組みについて紹介
しております。理学療法士の新たな
働き場所での働き方について「知る」
きっかけにぜひご覧ください。



<https://mypage.japanpt.or.jp/jpta/my/myLoginKaiin.html>



2021年度代議員選挙・ 日程のお知らせ

今年度は代議員選挙が以下の日程で開催され
ます。詳細については、2022年1月上旬に本会
HPに選挙告示・実施要綱を掲載する予定で
すので、順次更新する情報をご確認ください。

※今回の代議員選挙から代議員数は「概ね300人に1人の
割合(407名)」から「300名」の定数に変更となります。

選挙日程(予定)

- [立候補受付] 2022年1月24日(月)～
1月31日(月)
- [投票受付] 2022年2月21日(月)～
3月6日(日)
- [開票] 2022年3月6日(日)

マイページ(会員限定コンテンツ)
へのアクセスはこちらから。



公益社団法人

日本理学療法士協会

Japanese Physical Therapy Association

公益社団法人 日本理学療法士協会会報誌 号数：No.333
発行日：2021年10月20日

発行人：公益社団法人 日本理学療法士協会
〒106-0032 東京都港区六本木七丁目11番10号
TEL：03-5843-1747 FAX：03-5843-1748

HPへアクセス



代表：斉藤秀之
編集：日本理学療法士協会 事務局
本会HP：<https://www.japanpt.or.jp>

